

米吉の書簡

夕陽はほんとうに沈みました。部の街のもの音も、星の光におのづから其の夜めいた音の色さいが聞きとれます。こゝ二三日はほんたうにいゝ日和、今の体にお天氣が一番嬉しうございます。あの日はあんなに雨に降られて寒かつたのです。ほんたうにあなたと淺草へ行かなかつたのが残念で、今考へても、然しもう一ヶ月になります。まるで口の中からぶちあけるやうに血を吐いてからそれから毎夜く吐きました。ほんたうにこの眞紅の血潮を

捨てるか、さう思うては苦しい息をつき乍ら夜分そつとごぶ板の下へすてに行くのです。それでもあなたお承知の女、それが私が病んで以來一日おき、二日おきぐらゐに家を抜け出して来ては血の仕末などしてくれます。あなたのをそれさなしに言ひおこして下さつたお手紙に、彼女は涙をすゝつて居りました。ほんたうに御親切な方ねえ。さう言つては讀み返して居りました。先生も逢つて話をして下さいました。

ほんたうに御親切なおたより、その上に又大まいのお金をお送り下されたる由、何さお禮を申してよろしいや

ら、一耶さん私はかならず直ります。さうして一生懸命に歌を作ります。いゝ歌を作る事が皆に對するせめてもの恩返しだと思へ。先生はさう言つて下さいました。私もさう思つて、いやそれより他に道が無いのです。

今床の中で筆をとりつゝかくしつゝありても、少しも今日は苦勞では有りませぬ。此頃は血もはきませぬ。唯毎日熱の高いには驚いて居ります。病院の方は先生が骨を折つて下さるのですが、いつ入院出来る事やらさつぱり見當が付かないのです。あなたもどうか歌をお送り下さいまし。ほんたうにお願いでございます。あなたのお家で歌

の事を語りつゝしやけの卵のぶつゝで夕飯をいたゝいた。あゝあ、あれが健康の最後、ほんたうに人の運命なんてわけのわかつたものでは有りませぬわねえ。お大切に
れ。 大正八年十月十五日……相坂一耶宛

卷末に

畏友松倉米吉。逝いてすでに半歳。吾等茲にその遺稿を整理輯録して、謹んで彼の靈に供し、且つ普く之を世に行ふを得たるは、一同均しく欣快とするところである。

この遺稿出版の事は大正八年十一月廿五日米吉永眠と同時に、吾等の等しく念頭に發起したことである。しかも吾等はすべてに於て微力である故に、先づ之を故人の恩師古泉千樞氏及び島木赤彦氏に圖り、種々の指示と援助とを得て直ちに原稿の蒐集とその整理に着手した。吾等のこの舉は米吉を知れるすべての人の同情するところとなりアラ、ギ發行所は進んでアラ、ギ叢書第十二篇として發兌することを快諾せられ、廣瀬公三、辻村直、杉浦翠子、平福百

穂、美坂金治、石原純の諸氏からは發行費の補助を辱うした吾等はこれに一層力を得、二月末一巡選歌を了し三月、古泉氏の校閲を経て、こゝに印行するの運びとなつたのである。この集輯むるもの三百八十餘首。みなこれ珠玉なりとは敢て言はぬ。而も晩年の作に至つては、悉く前人未到の境に入つてゐることを、吾等は深く信じて疑はぬのである。この書刊行に當り終始援助を賜つた諸氏の深甚なる御好意を鳴謝してこの一言を畢ふ。

大正九年六月

行路社同人

早川 幾忠、林登美子、戸塚恒司
高田浪吉、中村美穂、相坂一耶
相坂精二、廣瀬照太郎、廣野牛麿

松倉米吉歌集は久しく絶版となつてゐたが、このごろ諸
方から求めてくる人々が少なくなない。しかし微小な私達
の力では早速どうにもならなかつた。今度古今書院の御
厚意で再版が出ることになつたのは、私達のふかく感謝
するところである。

大正十二年二月二十四日

高田 溟吉

松倉米吉歌集 終

大正十二年三月廿五日印刷
大正十二年三月三十日發行

松倉米吉歌集
定價圓五拾錢

著者	松倉米吉
發行所	東京市外西大久保四五九番地 橋本福松
印刷所	東京市麹町區肥後井町三番地 金澤求也

東京元眞社印行

發行所 東京市外西大久保四五九番地
振替東京三五三四〇番 **古今書院**

アララギ叢書目次

第一編	島木赤彦 中村憲吉 合著	馬鈴薯の花	東雲堂發行 定價壹圓參拾錢
第二編	齋藤茂吉著	赤 <small>しやく</small> 光 <small>くわう</small>	東雲堂發行 定價貳圓參拾錢
第三編	古泉千樫著	屋上の土近	刊
第四編	島木赤彦著	切 <small>きり</small> 火 <small>ひ</small> 品	切
第五編	齋藤茂吉著	短歌私鈔	品 切
第五編	齋藤茂吉著	續短歌私鈔	品 切
第六編	中村憲吉著	林泉集	春陽堂發行 定價壹圓八拾錢

第七編	齋藤茂吉著	童馬漫語	春陽堂發行 定價貳圓五拾錢
第八編	島木赤彦著	氷 <small>ひ</small> 魚 <small>を</small>	岩波書店發行 定價貳圓五拾錢
第九編	長塚節著	長塚節歌集	春陽堂發行 定價貳圓七拾錢
第十編	齋藤茂吉著	あらたま	春陽堂發行 定價貳圓四拾錢
第十一編	伊藤左千夫著	左千夫全集	春陽堂發行 定價各三圓五拾錢
第十二編	松倉米吉著	松倉米吉歌集	古今書院發行 定價壹圓五十錢
第十三編	土田耕平著	青杉	古今書院發行 定價壹圓八拾錢
第十四編	石原純著	駿日	アルス發行 定價貳圓八拾錢

357
✓
139

終